

## 要旨

地域共有手話とは、比較的小規模のコミュニティで、ろう者と聴者の住民が共有する手話言語である（Zeshan and de Vos 2012）。宮窪手話は、愛媛県大島の宮窪漁港周辺で漁業に携わるろう者・聴者の住民が使用する地域共有手話である。手話言語には、主語と目的語にそれぞれ異なる空間位置が割り当てられ、手の動きの始点と終点はその空間位置を利用する「一致動詞」という動詞タイプがある。本研究では、60代～70代の3名のろうの宮窪手話話者から、動画の描写課題を用いて宮窪手話の一致動詞の表現を収集し、主語・目的語などの文法的概念に関わる空間使用を調査した。その結果、日本手話に見られるような、第三者同士の主語・目的語を示す空間使用は確立していないことが観察された。項が頻繁に省略されたり、有生性や視覚的な目立ちやすさが語順よりも言語表現に影響を与えるというインドネシアの地域共有手話カタコロク(Kata Kolok)の研究報告(de Vos 2012:140-141)との類似性が見受けられる。

## 1. 研究の背景と目的

地域共有手話(Shared sign languages)とは、比較的小規模のコミュニティで、ろう者と聴者の住民が共有する手話言語を指す（Zeshan and de Vos 2012）。地域共有手話は、ろうコミュニティで確立している手話言語と比較すると、文法的な表現が限られるとされている。

本研究の対象である宮窪手話は、愛媛県大島の宮窪漁港周辺（図1）で漁業に携わるろう者・聴者の住民が使用する地域共有手話である。若い世代のろう者が島を離れるにしたがい、宮窪手話の話者は著しく減少しており、消滅危機言語の状態にある(Yano and Matsuoka 2018)。日本手話とは異なり、父・母・兄弟などの親族表現での年齢の上下を示す空間使用は見られない(Yano and Matsuoka 2016)。

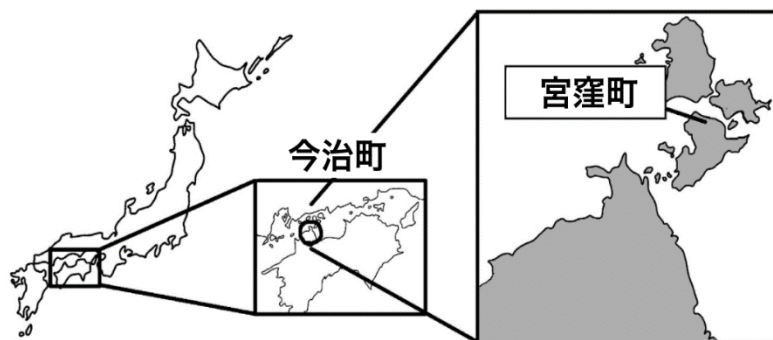


図1 宮窪町の位置

本研究では、動画の描写課題を用いて宮窪手話の一致動詞の表現を収集し、主語・目的語などの文法的概念に関わる空間使用を調査した。

## 2. 手話言語の一致動詞

ろうコミュニティで確立した手話言語には、主語と目的語にそれぞれ異なる空間位置が割り当てられ、手の動きの始点と終点はその空間位置を利用する「一致動詞」という動詞のタイプがある。

日本手話を含む世界の手話言語の一致動詞に共通して見られるパターンの例を以下に示した。一人称は話者自身の身体、二人称は聞き手の位置、三人称は任意に割り当てられた空間位置を使用する。



「a が b にあげる」（三人称→三人称）

「私があなたにあげる」（一人称→二人称）

「誰かが私にくれる」（三人称→一人称）

（松岡 2015:46）

Padden et al. (2010) は、イスラエルの地域共有手話であるアルサイドベドウィン手話の一致動詞は、主語・目的語が第三者であっても、話者自身の体を用いて表されると報告している。地域共有手話では一致動詞の文法的な空間使用が確立していないと考えられるが、それが地域共有手話に普遍的な特徴といえるかは未だ明らかではない。

## 3. 研究の方法

60代～70代の3名のろうの宮窪手話話者から、Padden et al (2010)の研究で使用された動画から5点を用いて、一致動詞の表現を収集した。2名は宮窪手話を主として用いるろう者<sup>1</sup>で、1名は、日本手話とのバイリンガル話者であり、日本手話と宮窪手話が混成した手話を使用する。

<sup>1</sup> 高齢の宮窪手話話者は、他地域のろう者との交流が極端に限られているため、日本手話との接触による影響がほとんど見られない。

3名は、短い動画（二人の人物が「渡す」「つかむ」などの動作をするもの）を見て、動画の内容をカメラに向かって宮窪手話で表現した。撮影された動画は、宮窪手話を第一言語とするろう者がELAN ソフトウェア (Sloetje and Wittenburg 2008) を使って書き起こしを行った。

#### 4. 結果

宮窪手話では、日本手話に見られるような、主語・目的語を示す空間使用は確立していないことが観察された。

##### 観察 1

宮窪手話を主として用いる 2 名は、二人の人物のどちらが行動を起こしたかにかかわらず、視覚的に目立つ人物（成人男性など）を選択して、その人物の動作について 1～2 語の短い描写を行った。

例：女性が男性にシャツを渡す動画の描写、/<sub>3</sub>もらう<sub>1</sub>男/または/<sub>3</sub>とる<sub>1</sub>/)

##### 観察 2

目的語が三人称であるにも関わらず、一致動詞の終点に自らの体を使用した

例：母親が少女からアイスクリームを取り上げる動画の描写、/<sub>3</sub>つかむ<sub>1</sub>/ または/<sub>3</sub>とる<sub>1</sub>/)

##### 観察 3

それに対して、日本手話とのバイリンガル話者の発話には、両方の人物の描写や、AUX マーカー (Fischer 1996, 今里 2014) の使用など、情報量・文法表現ともに多かった。

例：成人男性が少女にボールを投げる動画の描写 /男 a 子ども 女 b ボール 投げる aAUXb/)。

#### 5. 考察

動画の描写を用いた調査の結果、宮窪手話話者の用いる表現は、標準的な日本手話とは大きく異なっていることが観察された。主語・目的語を示す空間使用がみられないことがその特徴である。本研究で見出されたパターンは、de Vos (2012:140-141) のバリ島の地域共有手話であるカタコロク (Kata Kolok) において、項が省略されたり、有生性や視覚的な目立ちやすさが語順よりも言語表現に影響を与えたりするという報告と関連しており、地域共有手話に共通する文法的性質の考察に資するものである。

#### 謝辞

この研究に参加してくださったろう者の皆さまに謝意を表したい。本研究は平成 26 年～30 年度科学研究費補助金基盤研究(B)「手話言語の文法における『非手指要素』の意味的・統語的性質の研究」(課題番号 26284061) の助成を受けて行われた。

## 参考文献

- de Vos, C. Sign-spatiality in Kata Kolok: How a Village Sign Language of Bali Inscribes its Signing Space. Ph.D. diss.
- Fischer, S. 1996. The Role of Agreement and Auxiliaries in Sign Language. *Lingua* 98:1-3, 103-119.
- 今里典子 2014. 「日本手話における主語／目的語標示の助動詞について」『言語研究』第146号. 31-50.
- Padden, C., Meir, I., Aronoff, M., & Sandler, W. 2010. The Grammar of Space in Two New Sign Languages. In *Sign Languages*, ed. D. Brentari, 570-592. Cambridge University Press. /
- Sloetjes, H., & Wittenburg, P. 2008. Annotation by category - ELAN and ISO DCR. In: Proceedings of the 6th International Conference on Language Resources and Evaluation (LREC 2008).
- Yano, U. & K. Matsuoka. 2016. Number, Time Line, And Spatial Expressions In A Village Sign Language In Japan: A Preliminary Study Of Ehime-Oshima Island Sign Language. An oral presentation at the 12th International Conference on Theoretical Issues in Sign Language Research (TISLR12), hosted by La Trobe University, Melbourne.
- Yano, U. & K. Matsuoka. 2018. Numerals and Timelines of a Shared Sign Language in Japan: Miyakubo Sign Language on Ehime-Oshima Island. *Sign Language Studies* 18:4, 640-665.
- Zeshan, U. & C. de Vos. eds. 2012. *Sign Languages in Village Communities*. Walter de Gruyter.